

本会の動き

☆第90年会 「ダイバーシティフォーラム」報告☆ 開催日：2025年3月13日

第90年会男女共同参画委員会行事の「ダイバーシティフォーラム」は2025年3月13日に東京理科大学の葛飾キャンパスで開催されました。今回は女性賞受賞講演2件、招待講演2件に加え、講師の方々及び委員会関係者によるパネルディスカッションも行いましたので、各講演の概要をご紹介します。

まず女性賞受賞講演として、名古屋大学 日出間り氏より「複雑流体の流動挙動解明と制御に基づく革新的化学プロセスへの展開」という題目でご講演がありました。研究対象とされている少量の高分子（ソフトマター）を含む流体は伸長や緩和などの複雑な特性を持ち、マクロ的には抵抗低減効果を示すことが知られていますが、先生はこの特性をマイクロレオロジーという概念で捉え、複雑流体の興味深い現象を指摘し、新たな反応器の設計につなげる自身の研究をご紹介します。

日出間氏は大学進学を考える頃から環境問題に興味を持ち、2001年に農学部に入学されました。その後、大学で色々な先生の話を通じて直接聞いていくなかで、後の恩師の牛木秀治先生との出会いをきっかけにご自身の考え方が変化し、化学を専攻されるようになったとのことでした。さらに留学もされ、



講演者の日出間氏

各国のいわゆるエリート層の人たちと交流を持られたことで、さまざまな刺激を受けられたようです。いまでも心に残っている牛木先生の言葉のひとつに、「道のりは長く、ものになるまで10年かかる。そして、自分がこれまで受けた恩は年下に返すように」があり、これが座右の銘にもなっているとのことです。その後2010年からは、山形大学、2012年からは、神戸大学、2024年からは現在の名古屋大学に移られ、多くの研究実績を挙げられています。

また男女共同参画の視点からのお話では、戦前資生堂に勤められたお祖母様や高校の国語教師をされていたお母様についても触れられました。ご講演では、「チャンスは準備が全然できていない時期にやってくる」と言われたことが印象的でしたが、何事にも楽しむことを忘れず、果敢に挑戦する姿勢がご自身のDNAだけでなく、環境によってももたらされたように感じました。

続いて、受賞講演2件目としてNPO女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクトの永合由美子氏から、「日用品製品開発から次世代人材育成へ～社会課題に化学工学的視点でアプローチ」という題目でご講演がありました。永合氏は、東京大学工学部化学工学

科をご卒業後、ライオン株式会社で18年間一貫して研究員として勤められ、その後、6年間はマーケティング部門でご活躍されました。現在はNPOの学術支援専門職員としてご活動されています。会社員時代には、さまざまな課題に対してWhy?何が原因か? (アナリシス)とHow?それを



講演者の永合氏

もってどうすればいいのか? (シンセシス)という構図の中でのものを考えるアプローチを常に心がけていたというお話をされました。このアプローチを用いて、(株)ライオンの『部屋干しトップ®』の開発事例についての紹介がありました。

永合氏はご自身のことを好奇心旺盛といわれ、その心持ちがあるからこそ、世の中に存在するたくさんのアンコンシャスバイアスを客観的に見る事ができたのだらうと感じました。例えば「女性は数学ができない」といわれたとき、無意識のプレッシャーで脳内のワーキングメモリの一部が使われることを紹介されました。その抑圧に囚われず、逆に数学の面白さに触れたり、考え方を学んだりすることの大切さや、情報を得て体験し考え、さらに表現し共有するというインプットからアウトプットまでの一連の工程が重要であり、これを仲間と共に活動する意義をお話しされました。このような活動をするかっこいい女性、母親を増やすことがこのフォーラムで取り組んでいる課題に有効ではないでしょうか、というお話が、先生からの粹なメッセージのように思え、社会全体がより活き活きとすることを願われているように感じました。

次に三菱ケミカルリサーチ(株)社長の華房実保氏より「生き方・人生経験の実例ご紹介～人生いろいろです～」と題した招待講演がありました。まず冒頭に、実は人生最大の転機は、高校生の時に幼少のころから熟達されていたピアノの世界をあきらめ、化学の道を選んだことであつたとお話があり



講演者の華房氏

ました。大学では農芸化学を専攻された後、三菱化成(株)(現三菱ケミカル)に入社され、その後は社内外で多岐にわたる業務を経験されています。通常の方の軽く数人分はあろうかと思える多彩なご経歴の紹介がありましたが、それらの中で大切にしてきたことや感じたことなどをご自身のお言葉で語られ、大変説得力のある濃密な内容のご講演でした。

入社後の具体的なキャリアとして、まず農業資材の研究開発、市場開発をご担当され、新製品開発ではユーザーである農家の方々との交流など数々のご経験をされた後に、思いがけず研究企画の部署に移られ、R&D全体の企画調整や事業化推進の業務に従事されました。続いて国連グローバルコンパクトのネットワークジャパンでサステナビリティのプラットフォーム構築の国際的なお仕事を

され、企業でない組織での経験や会社を外部から見る機会は貴重であったとのことでした。その後会社に戻られ、今度はグループ企業を束ねる三菱ケミカルホールディングスの経営戦略室で「KAITEKI活動」を推進されています。当初はサステナビリティやSDGsの取り組みに対する意識が浸透しておらず、社内の理解を得ることに苦労されましたが、その理解が得られた時の喜びは大きかったとのことでした。その後また社外へ出向され、内閣府官民人材交流センター副センター長および大臣官房審議官（男女共同参画局担当）を務められました。この期間中、男女共同参画社会の推進に尽力され、特に女性の社会進出や活躍推進に関する施策の立案・実施に貢献されました。また、理系女子学生の支援や、男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会の設置など、多岐にわたる取り組みを推進された経験を話されました。その後また会社に戻られ、今度は機能化学品や情報電子材料事業の企画管理に携わった後、現在の三菱ケミカルリサーチに移られ社長に就任されました。その後は環境負荷の削減や有用な情報の提供、社員がチャレンジできる風土づくりなどに率先して取り組んでおられるとのことでした。最後に、これまでの人生を振り返って、多彩なご経歴の中で常に大切にしてきたこととして、「多様な価値観や同僚・部下への信頼と感謝」、「未体験の分野への好奇心と挑戦」などを挙げられていたのが大変印象的でした。

最後のご講演は、東京科学大学 野村淳子氏から、同大学でのダイバーシティ推進や欧州での女性研究者支援の取り組みについての内容でした。まずご自身の経歴では、理工系の大学の中で常に「初の女性」の立場で、色々と苦労されたとの話をされました。この苦労を経て、2022年度には、触媒学会賞を受賞されましたが、これはIR法を駆使してゼオライト触媒上の分子を直接観測し、吸着や反応素過程の解明に顕著な業績を上げたことが評価されたものとのことでした。その後2022年に、社会連携・DE&I本部のマネジメント教授に就任され、ダイバーシティ推進のための様々な取り組みを進められています。

その内容についてご紹介がありましたが、それまでの研究とは全く異なる分野で、当初は大変戸惑いがあったとのことでした。その後一般的なダイバーシティ推進にとどまらず、女性の活躍推進に向けて「女性限定教員の公募」や「大学入試での女性枠の導入」という先進的な取り組みを行うことになり、タイトなスケジュールの



講演者の野村氏

中、先頭に立って推進されたとお話がありました。ご講演を通じて、「これまでの施策を進めているだけでは、目標とする女性活躍のレベルには到達しない。そのためにはさらに踏み込んだ取り組みを具体的に進める必要がある」との強いご意志が感じられました。

講演後の質疑では、「入試での女性枠や研究者の公募での女性優先が男性にとって不公平であるとの批判に対してはどう答えたのか」という質問がありました。それについては、「入試については、女性受験者が女性枠に回るので、男性受験者も競争率自体はほとんど変わらない。また研究者の公募では、今まで『男性側が履いていた下駄』を脱いでもらったにすぎないと説明しており、それである程度納得されている」とご返答されていました。

続いてフォーラムの最後に、今回初めての試みとして「女性技術者の増加に対してどのような取り組みが必要か」と題したパネルディスカッションを行いました。まずは吉宗副委員長から、男女共同参画学協会連絡会が行った大規模アンケート（男女共同参画の実態調査）の説明がありました。それを踏まえてディスカッションを行いました。やはり中高生など若い世代への啓発は重要だが、併せてその親の世代に対するアプローチが大切との意見が多く出されました。また親だけでなく周囲の影響も大きく、女性が技術者の道へ自然に進めるような環境作りも重要とのことでした。併せて化学技術や技術者のイメージアップを目指すべきで、その魅力を伝えるためには更なる教員側の熱意や意識の向上が必要との指摘がありました。また企業でも様々な制度は制定され様々なライフイベントに対する業務環境は整ってきているが、女性活用に関する意識や考え方などはまだまだ浸透が不十分など、講師や委員の方々から活発な意見が出されました。

ここで予定時間を超過したため、フォーラムは終了となりましたが、この後は委員会メンバーに熊切次期委員長も加わり、昼食をとりながらの交流会へと移りました。その交流会では、普段はオンラインでしかお会いしたことがない方々と直接対面でお話ができ、今後の活動の活性化に向けて、大変有意義な機会となりました。

全体を通して、各講師の方からのお話はそれぞれご自身の体験に基づいていて、個性的かつ魅力的であり、大変参考となる内容であったと感じました。なお男女共同参画委員会では今後も様々な行事を企画していきますので、ぜひ積極的なご参加をお願いいたします。また男女問わず、委員会への参加も可能ですので、ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

（山口大学 貝出 絢、芝浦工業大学 吉見靖男、化学工学会 三谷 誠）



パネルディスカッションの様子（左から貝出氏、日出間氏、吉宗副委員長、華房氏、野村氏、永合氏、宮崎委員長）